

3. 毛虫皮膚炎 caterpillar dermatitis

いわゆる“毛虫”のうち、毒性をもつものは全体の約2%である。ドクガ、チャドクガ、モンシロドクガなどの幼虫（毛虫）の毒針毛が皮膚に刺さることで生じる。これらの虫の成体に触れた時も、幼虫時の毒針毛が残存しており、皮膚炎を発症することがある（毒蛾皮膚炎）。卵にも毒針毛が付着している。また、毒針毛は空中に散布されることがあり、屋外作業中に気づかないまま発症することも多い。イラガなどは毒針毛をもたないが、毒棘を有しており、触れると毒液が注入されて同じように発症する。患部がチクチクと痛み、痒痒を伴う点状紅斑が出現した後に小水疱や丘疹を生じる（図 28.2）。集簇したり列序性にみられることもある。擦らずに水で洗い流すか、テープなどで毒針毛を除去し、ステロイド外用などを行う。

4. 線状皮膚炎 dermatitis linearis, linear dermatitis

アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes* (Curtis) (図 28.3) を払いのけようと虫体を潰した際に、体液が付着して発症する。アオバアリガタハネカクシはほぼ日本全土に生息し、体長約7mmで水田などに棲む。接触後2～3時間で、灼熱感を伴う線状の特徴的な紅斑を認め（図 28.4）、小水疱、腫脹、びらん、潰瘍なども生じる。原因物質はペデリン (pederin) とされる。約2週間で色素沈着を残して治癒する。

5. シラミ症 pediculosis

定義・分類

シラミがヒトに寄生し、吸血することでアレルギー反応を生じ、著しい痒痒をきたす疾患である。ヒトに寄生するシラミは、頭髮に寄生するアタマジラミ *Pediculus humanus capitis* (体長2～4mm, 図 28.5)、衣服に寄生するコロモジラミ *Pediculus humanus humanus* (体長2～4mm)、陰毛に寄生するケジラミ *Phthirus pubis* (体長1mm, 図 28.6) の3種類である。アタマジラミとコロモジラミは外見では区別できない。また、コロモジラミが媒介する感染症として発疹チフス (epidemic typhus) などがある。

症状

寄生したシラミは毛に卵を産み、それが約1週間で孵化し、約3週間で成虫になり、1日3～5個の卵を産むとされる。吸



図 28.1② 虫刺症 (insect bite)
腹部および下肢に多発する約5mm大の痒痒性小丘疹。



図 28.2 毛虫皮膚炎 (caterpillar dermatitis)
痒痒を伴う紅斑と丘疹。



図 28.3 アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes* (Curtis)

ようそ
蟻蛆症 (myiasis)

MEMO

うじ
蛆治療 (マゴットセラピー)

MEMO